

男女コラボは炎上する？男の娘なら問題ないよねっ！

ベジタブル

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

V t u b e r 黎明期。

今のところ企業Vは女の子ばかり。

でも男性Vもデビューさせたい！

じゃあとりあえず男の娘でお茶を濁せ！

V事務所の叔父さん「お前リアル男の娘だしデビューしてよ」

主人公「ええよん」

そういうお話。

※

V t u b e r モノを読んで「面白いなく」「俺も書きたいなく」ってなつて勢いで書いた代物。

頭を空っぽにして呼んでください（超重要）

目次

7月				
1話	1			
2話	10			
3話	21			
揭示板回	32			

# 7月 1話

V t u b e r 。

Y o u r T u b e という動画配信サイトに動画を投稿したり、そこでライブ配信をする人たちの事をY o u r T u b e rと言うらしいが、つまりはそれのバーチャル版。

V i r t u a l Y o u r T u b e rでV t u b e rだ。

昨年のも10月だったかに、ある1人の動画配信者が3Dモデルをト  
ラッキングさせて撮影した動画を投稿した事が始まりだそうだ。

本人が言ったかファンが言ったかは知らないが、V t u b e rとい  
う文化が興り、新しいものの好きのオタク達は「どんなもんだ」と飛び  
ついた。

初めの内は3Dモデル自体や、撮影用の機材を用意するハードルの  
高さから、見るだけのものであつたそのジャンルも、L i f e 2 D (略  
してL 2 D)という技術によって多くの人が発信する側に立てるよう  
なものとなつた。

L 2 Dというのは簡単に言えば、ある表情から別の表情へと自  
然に変化するように設定しておく事で、1枚の立ち絵でありながらア  
ニメのように——生きているかのようにキャラクターを動かす技術  
の事だ。

勿論、コレを作るのだって簡単な訳ではないが、3Dモデルをフル  
トッキングする事に比べれば容易であつた。

立ち絵を表示して配信活動をする、そんなの昔ながらの配信者と変  
わらない、v i r t u a l 1つて感じがしない、3D技術の発展を妨げ  
る云々、批判的な意見もあるが、沢山の人が楽しめるようになったと  
いう事は、それ自体も、それによって新たなサブカルチャーのジャン  
ルが拓けていくという意味でもボクは良い事だと思う。

とはいえ、いわゆる『始祖』とやらが出てから、まだ半年と少しし

か経っていない界限だ、功罪の結論を付けようなんて、余りにも早すぎるのだろうか。

ま、そんな業界だ、V t u b e r というのは。

「なあ…： 星那<sup>セナ</sup>、お前V t u b e r に興味ないか？」

「んー、たまに動画を見るくらいかなあ？ ライブを見に行ったり、特定の誰かを推したりとかはしてないよ？」

いきなりそんなV t u b e r について尋ねてくるのは、一緒に暮らしている叔父の浩哉さん。

普段は仕事が忙しくて、会社に泊まるか、深夜まで帰ってこないのに、今日は珍しく7時に帰ってきたから、一緒に夕飯を食べている。

勿論ボクが作ったやつだ。

「ああ、いや、見るほうじゃなくてだな  
？」

困ったように頬をポリポリとかく浩哉さん。

身内鼻屑かもしれないが、渋い男前というか、所謂イケオジって感じの見た目だから、嫌に様になってるように思える。

まあ、ちよつと草臥れてたり、生えっぱなしの顎髭で実年齢より老けて見えるのがちよつとびり残念だけど。

「えー…： これはな？ 職場でちよつと話題になったことなんだが、勿論、嫌なら断ってくれても構わないんだ」

なんだか妙に勿体ぶった前置きだが、一体どうしたと言うのだろうか。

まあ、「おじさんの職場」と「見る側じゃない」というワードさえあれば、どういった話しかは自ずと見えてくるというものだが。

「おほん…： 星那、V t u b e r になってみないか？」

「いいよー」

「軽っ!?! 軽くない？ もうちよつと迷ってくれてもいいんだぞ?!」

拜啓、お母さん。

ボクはV t u b e r をする事になりました。

♪ ♪ ♪ ♪ ♪

そんな会話から1ヶ月近くが過ぎた。

今に至るまでの時間は、まあ濃密で、大変なもんなんだなアと思いつながら、出来ることはしてきたつもりだ。

V t u b e rとしての設定を詰めたり、浩哉さんと話し合いながら自室に機材を入れたり、体力作りの為に朝からランニングをしたり、ボイスレックスを試してみたり、雑談の種を探してみたり、事務所の先輩方の配信やアーカイブを見てみたり……

そんな風に準備をしていたところで、ボクの分身となる立ち絵が完成したという報告があった。そこから事務所が新ライバーがデビューするぞと告知を徹底して、ようやく今日、7月13日にボクは視聴者の皆さんの前に立つことができる。

できる、のだが……

○○：しね

○○：はやく引退しろよ

○○：男とかいらんないんだが

○○：アカリンが汚れる

○○：どーせオフパコ狙い

○○：消えろ消えろ消えろ消えろ消えろ消えろ

絶賛炎上中であつた。

どうしてこうなつたか、という話は簡単。

ファンが望んでいるのは「女の子」だからだ。

更に言えば、「女の子と女の子の絡み」も含む。

逆に言えば、「僕らの大好きなああの娘達に男の影なんて絶対要らない！」という事である。

今現在、人気のあるV t u b e rというのはその殆どが女性キャラクターだ。

「理想の女の子とお話ができる」、そんな魅力を感じているファンたちにとつて、女性Vはある種アイドルのようなものであり、処女性が強く求められる存在と言える。

勿論、多種多様なV t u b e rの中で、男の影がチラつくことを良しとしたり、そもそも男性V t u b e rだったり、その男性Vとコラボしたりといった例外は多く存在する。しかし、それらは皆、殆どが個人で活動しているV t u b e rだった。

企業所属の商品で、そのような活動をしている者は、未だに存在していない。

詰まるところ、ボクは『企業勢初の男性V t u b e r』なのだ。

ボクの事務所の告知では「当事務所から新たなライバーが登場！

今回はなんと男性V t u b e rだ！」みたいな事しか流しておらず、見た目はシルエットのみ、その他の情報は一切ゼロである。

そりゃあ、燃える。

アンチにも色々とあるのだろうが、今回の炎上は、殆どが既存ライバー達——僕にとつては先輩達——への愛が引き起こした事なのだろうと思う。（勿論純粋に騒ぎたいだけの人もいるのだろうが）

正体不明の男が、自分たちの愛する女の子の近くに現れたなんて、なるほど心配にもなるだろう。

そんなお節介な人達が、集まりに集まって7万人。

所属ライバー4人全員がチャンネル登録者数10万人を超える事務所の新人ライバーとはいえ、破格の視聴者数だ。

——上手くやるもんだなあ…

今夜、恐らくV t u b e r業界で最も注目されているのはボクだ。そしてこの配信が、ボクの所属事務所の命運を決める……とまではないかなくても、ある程度は左右する事になるだろう。

それほど大事なこの勝負。  
だからこそボクなのだろう。

待機BGMを配信用のソレに変更する。

それだけの事で、元々速かったコメント欄の動きが、更に激しくなる。

数多の罵声がボクの目に入るが、大して気にはならなかった。

今までのシルエツトをかき消し、ボクの先輩が用意してくれた、素敵な立ち絵を表示させる。

紺色のブレザーの下に白いパーカーを着て、更にその下からカットシャツが覗いている。

首元には空色のネクタイが締められ、爽やかな装いだ。

透き通るような空色の髪は、男の髪型と聞かれて想像するより些か長く、肩にかかりそうな程だが、それを後ろでちよこんと括って纏めている。勿論、正面立ち絵の都合上、完全に後ろに垂れるのではなく、左から覗いている形だが。

おっとりとしたタレ目に、薄く笑みを浮かべる小さな唇は、幼く女性的で、「男性V tuberのデビューだ」と言われて集まったはずの視聴者達の頭を酷く混乱させた。

○○：ファツ!?

○○：めっちゃ好み

○○：可愛いんだが

○○：ブス

○○：男の娘やんけ!!

○○：男性Vなんておらんかったんや

○○：いや、騙されるな、きつと声はおっさんだ!

○○：思ってたのと違う

よしよし、いい感じだ。

ミュートを外す前に、んんつと1つ咳払いをしておく。

普段から女の子と間違われる程、高く幼い地声を、更に気持ち高めにチューニングした。

今のボクは最ツ高にかわいい男の娘だ!

「皆さん、初めまして! Virtual SKY所属、新人男性V tuberの五河ソラです! よろしくお願ひしますっ♪」



○○：かわいい  
○○：かわいい  
○○：正直アリ

「じゃあまずは自己紹介からしていきたいと思います。ボクは先輩方の通っている空創学園とはまた別の高校に通う、17歳の高校2年生です」

○○：ふーん、ぼつちじゃん  
○○：テニスの皇太子様みたいに言うな

「あはは、まあ、あそこは女子高ですからね、ボクは通えませんよ。男のこなので」

○○：男の娘だもんな  
○○：きつしよしね  
○○：バレなさそう

「V t u b e r になっただきつかけは… えっと、ボク、叔父さんと2人で暮らしてるんですけど、その叔父さんもお仕事が忙しくって、よく1人でのいるんですね？ だから、お家に1人でのいる時も寂しくないようにって感じですよ」

まあ、ただの1人つきりなら別に嫌じゃないんだけどさ……  
ボロが出ないように、殆ど自分自身とリンクさせた設定にしてしまったが、闇深要素とか嫌がられないだろうか？

務めて明るく喋ってるから、暗くはならないと思うんだけど。

○○：あつ  
○○：闇深そう  
○○：同情誘ってもオスはオスだぞ  
○○：海外出張とか？ 主人公かな??

「あつ、生きてます生きてます、亡くなったりはしてませんよ！ 両親と離れてる理由については、また機会があればお話したいな、と思います」

そんな感じで公式設定の解説を終えて、今度はツブヤイターなどのSNSで使用する配信やファンアートのタグを決めたり、リスナーさん達の呼び名を決めたりと、与えられた1時間の枠の中で、今後の活動に必要な諸々を決めていった。

途中、チラリとコメント欄を見てみると、批判的な意見…というか、最早ただの罵詈雑言といったコメントも度々見られるものの、好意的な意見に押し流されていって、そこまで目立っていないようだ。

こういうのを「カワイイは正義」って言うんだろうか？

「じゃあ…：…皆さんの事はオソラーとお呼びしますね。それから、配信タグは#オソライブ、ファンアートタグは#大空のキャンバスです。是非、このタグでバンバン呟いてほしいですっ！」

うん、予めいくつか候補を出していたとはいえ、時間内にスムーズに決まって良かった。

ただ、個人的にはファンアートタグは#空耳とか#空目とか、ちよつと妄想過多になって面白そうだなあと思ってたので残念だ。

分かりにくいというか、ホントの空耳や空目と混ざっちゃうという意見や、Virtual SKYの親会社がClear Canvasという名前である事などが上手く働いたのだろう。

配信中に言ってみたら視聴者さん…もとい、オソラーさん達の反応も良かったし、ソラを使った妄想ツイートなんかに付けるタグなんかで使おうかなあ…？

「そろそろ、いい時間になってきましたね」

〇〇：いかないで

〇〇：早く引退しろ

〇〇：時間経つの早い

「この後すぐにツブライターアカウントの方を更新したり、マシマロを開設したりするので、そっちのチェックもよろしくね。あ、あと、最後に告知だけ」

SNSアカウントのアイコンやヘッダーなども黒塗りで、プロフィールも最低限の情報しか書いていないので、この配信が終わったらずぐに用意してもらった画像に差し替えなきゃ。

Virtual SKYはライターに割と自由にやらせる事務所なので、SNSの管理もライター自身が行える。流石に案件に関するツイートをする場合にはチェックが入るだろうが、それはまだ先の話だ。とにかく、この信頼を裏切る訳にはいかないから、出来るだけ慎重に、かつ効果的に呟いていきたい。

ちなみに、数少ないツイート（デビュー告知やアカウント開設のお知らせなど）には、とんでもない量の罵倒が届いているが、DMは開放していない為に、思ったよりもダメージは少ない感じになっている。

さて、この初回配信最後に伝えるべき告知が何かというと……。「なんとですね！ 明日、明後日と連休な訳ですが、2日続けて、1期生の先輩方とコラボ配信をする予定になっております！」

○○：マ!?

○○：キターー!!

○○：やめろやめろやめろやめろ近づくな

○○：今から楽しみ

「明日は二科にしな 悠希先輩ゆうきと三日月みかづき 翠先輩みどりとの3人で、明後日はいちのせ 明里先輩あかり、四ノ宮しのみや 葵先輩あおいの3人でお送りしますっ♪」

○○：おおーっ！

一之瀬 明里：よろしくね〜

○○：明里ちゃんおるやんけ！

○○：アカリンもよう見とる

コメント欄の反応はかなり好感触。

配信開始前には想像もできない手のひら返し感だ…

って、一之瀬先輩いるじゃん。

「見てくださってありがとうございます！」とお礼を言っておこう。

…さて、長かったようで短かった初配信もこれでお終いだ。

「それではオソラーの皆さん、今後とも五河ソラをよろしくお願いします。おつソラでした〜！」

○○：おつそら〜

○○：おつソラー！

○○：お疲れ様でした

「五河ソラChannel」

7/13（土）

【初配信】みなさん、はじめまして【Virtual SKY】

チャンネル登録者数：1. 23万人

## 2話

「ゆつきチャンネル」

7/14 (日)

【雑談コラボ】先輩？後輩？男？女？【#黄緑空】

「先輩方、どーもッス！ Virtual SKY所属、空創学園放送部1年、皆の黄色い後輩こと二科悠希ッス！ そして〜」

甘い声で配信の開始を告げたのは、1期生の4人全員でお揃いの白いブレザーを着た、ショートカットの黄色い髪を揺らす女の子、二科悠希先輩だ。今日も元気にピョコツと突き出たアホ毛を揺らしている。

「は〜い、一般先輩の皆さんも、入部希望者の皆さんもこんばんは〜。空創学園放送部部長の三日月 翠です。今日は悠希ちゃんのチャンネルにお邪魔してま〜す」

二科先輩に続いて自己紹介をしたのは、緑色の髪をハーフアップにしたお姉さん、三日月翠先輩である。

優しくて頼りになる雰囲気立ち絵からでも察せられる、Virtual SKYの姉的な立場の人間だ。実際に一之瀬明里先輩からは「みどねえ」などと呼ばれている。

が、しかし、1番多い呼び名は「部長」だろうか。二科先輩やファン——二科先輩のファンが一般先輩、三日月先輩のファンが入部希望者——からはそう呼ばれているようだ。

〇〇：こんばんは、部長、後輩

〇〇：ここまでは見慣れたコンビ

〇〇：うずうず

〇〇：ばんわー！

「それで…ね。まあ今日はいつもの黄緑コラボじゃなくて、もう1

人来てくれてるだけどさあ」

「先輩方も気になってるみたいツスねえ、あはは…… いやでも、やっぱアタシ的にも気になるツスよ！」

○○：あーね

○○：先輩なのか後輩なのか

○○：キャラ崩壊の危機

「ああ、そうだよねえ…… 悠希ちゃん的にはややこしい感じになるもんね」

「そツス、そツス！ ま、そこら辺も今日は白黒ハッキリさせたいと思ってるんでね…… 早速来てもらいまツス！」

フラフラと上半身を揺らつかせながら、ボクに登場を促す悠希先輩。その動きに合わせて揺れる首元の黄色い——1期生の4人は制服こそ共通デザインだが、リボンとスカートの色がそれぞれのパーソナルカラーになっている——リボンが可愛い。

チラリと視聴者数を覗いてみれば、現在の同接数は2万人を超え、3万人に近い数字となっている。

昨日の初配信に比べれば少し少ないが、先輩方の普段の配信の視聴者数が1万人弱である事から考えても、十分多い方だろう。

昨日とはまた違った緊張を味わいながらも、昨日と同様に1度咳払いをしておく。

既に二科先輩がボクの立ち絵を表示してくれていて、後はボク自身の手でミュートを切って話始めるだけだ。

——よしっ！

「一般先輩、入部希望者、オソラーの皆さん、こんばんはっ♪ Virtual SKY所属、新人男性Virtual YourTubeの五河ソラです！」

○○：きちちゃ！

○○：挨拶出来て偉い

○○：悔しいけどかわいいんだよなあ  
○○：こんばんはく

「今日はお呼びくださいってありがとうございます、二科先輩、三日月先輩。今日は……. というか、これからよろしくお願いしますね！」

「うんうん、こつちこそよろしくね……. なんていうか新鮮つか、フレッシュユだなあ。もう私たちにはない元気さというか…….」

○○：草

○○：思い出される初配信

○○：みいなさあくくくん♡

○○：初めましてえ！

「ちよちよちよ!! やめてってば、ソラくんに恥ずかしいの知られちゃうから!」

「ああ、部長の初配信気合い入ってましたツスもんねえく、あはっ」

「知られちゃうっていうか、ボクも知ってますよ。直後の一之瀬先輩のハチャメチャさを見て、配信2回目で『わたしに求められているのはアレじゃなかった』って言い放ったアレですよね?」

「なあんで知ってるのお!」

三日月先輩は驚愕の声を漏らし、二科先輩はケラケラと笑って両手を打ち合わせていた。

何で知ってるのか、と聞かれれば勉強したからである。

浩哉さんに話を持ちかけられるまではたまーに見る程度でしかなかったV t u b e rだが、自分がいざデビューするとなつてからは、必死に配信に参加し、切り抜きを見ては有名な発言やネタを学んできたのだ。当然、切り抜きだけでは限度があるので、特に有名な配信や、初回配信などはキチンと最初から最後まで視聴しているのである。

少々時間が足りなかつたので、各先輩につきモニター1つずつの4窓で、だつたが。

「そりやそうですよ。ボク、皆さんの後輩であると同時に4人全員のファンですもん」

○○：やるやん

○○：かわいい俺ら

○○：そらみどてえてえ

後輩である前にはなく、同時になのは、後輩になる事が決まってからファンになったという事だ。バレればファンからの目は冷ややかになるだろうが、言わなければバレやしないので、そこまで神経質になる必要もないだろう。

「うあー、色々恥ずかしいわね…。」

「そうですか？ ボクは素敵だと思えますよ。見てくれている皆を楽しませようという一心で、そういう振る舞いをとったんですね？

それでいて、一之瀬先輩とのバランスを考えて、一生懸命考えたキャラクター性を捨てて、放送部に必要なピースを埋める選択をとった。コレって皆が出来るような事じゃないと思います！」

そう思った事を口にしてみると、何故だかコメント欄は爆速だし、三日月先輩は小声でブツブツと話しているし…

「あ、あーっと、その辺に、しといてあげて欲しいツス…。」

「違うの、ホントは安易にぶりっ子演じて、恥ずかしくて無理があるなーって思っちゃって、素が出ちゃって、もういいやってなっちゃっただけなの…。」

○○：天然なのかドSなのか

○○：この全肯定具合…やはり俺らか

○○：聖人系天然ドS男の娘キャラ

○○：属性渋滞してて草

「先輩想い過ぎる後輩って言うのも考えものって事ツスカね…。」

「あれ？ ボク何かやっちゃいましたか？」



なんだか、よく分からないが、失礼なことをしてしまったのかも  
れない。

あつ、もしかしてそういう内実を暴露するっていうのは、営業妨害  
に当たってしまうのだろうか？

うーん… 難しいんだなあ。

○○：ww

○○：なろう系で草

○○：まーた属性追加しちゃったよこの娘

○○：ん？字がおかしくないですか???

○○：おかしくないですねえ！

「んんんーう！ はい！ 悠希ちゃん、今日の企画行くわよ！」

あつ、よかった、復活した。

「はいはい、了解ツス。企画って言っても大した事じゃないんすけど  
ね。新人ライターであるソラ先輩の事を皆に知ってもらおう！  
というか、アタシ達も知りたい！ って事で、簡単な質問を30個ほ  
ど用意してきたツス！」

「まずはそれをドンドン聞いていくから、全部答えて貰った後に、それ  
を掘り下げていこうって感じね。題して…」

「五河ソラに聞きたい、30の質問!!」

「1. 名前は？ — 五河ソラ」

「2. 性別は？ — 男」

「3. 年齢は？ — 高校2年の17歳」

「4. 誕生日は？ — 7月7日」

…  
…  
…

「27. 性別は？ — だから男ですってば！」

「28. 今後、配信でやりたいことは？」

— 基本的にリクエストがあれば何でも

「29. 活動の目標は？」

— 男性企業Vが増えやすい環境造り」

「はい、お疲れ様つしたー!」

「じゃあ気になった所から深掘りしていきましようか？」

「いや、あの……… なんか性別に関しての質問、4回くらいありませんでした!?!」

○○：草

○○：てか1問足りなくね？

○○：めちゃくちゃ疑ってるww

○○：いやでも気持ちは分かる

男の娘キャラとしてのデビューも浩哉さんや、その仲間の皆さんの為になるならと引き受けたが、自分としては「女の子に見えなくもない男」「女声に聞こえなくもない男声」くらいのものだとおもっているんだが。

そんなに女の子っぽいのだろうか………？

「んー、いやだつてさあ…… うん、男だつて事は分かるんだけど、でもやっぱ分かんないつていうか」

「そうツスよね！ 男の子が女の子っぽい声を出してるようにも、女の子が男の子っぽい声を出してるようにも聞こえるつていうか……」

「言うなれば、性別『五河ソラ』みたいな事よね」

「ええ……」

○○：あー正にそんな感じ

○○：部長さすが

○○：言い得て妙つて感じだわww

「そんな事より、まずは年齢の事ツスよ。ひっじょーにめんどくさい感じになつてませんか？」

「ああ、そういえば、学年的には先輩だけど、ライバーとしては後輩って事になりますね？」

「んで、悠希ちゃんはソラ君の事、ソラ先輩って呼んでるし、ソラ君は悠希ちゃんの事、二科先輩って呼んでるわよね？」

「確かにややこしいですよね」

「という訳で、アタシはソラっちって呼ぶので、ソラっちもアタシの事、先輩以外で呼んで欲しいツス！」

そ、ソラっち!?

う、うーん、二科先輩のファンに刺されたりしないだろうか…

まあでも、二科先輩がボクの事を先輩と呼びにくいのは分かる気がする。

ソラの見た目は年齢の割に幼い感じに見えるし、そもそもリアルの年齢があつちの方が少し上だ。

浩哉さんに聞いた話によると、二科先輩は20歳の大学生だったはず。

それはさておき、呼び方、呼び方なあ…

「じゃ、じゃあ悠希さん、で…どうですか？」

「うんうん！ いいじゃないツスカ！」

「そうね、他人行儀な感じがしないと思うわ。なんとというか、悠希ちゃんのセンパイ呼びと違って、ソラくんのは壁があるように感じられたもの… うん、私も翠さんでいいわよ？」

「え、え、えと… じゃあ翠さん… こ、これでいいですか？」

うああ、なんかちよつと恥ずかしいかもしれない。

でも、それ以上に嬉しいかも。

「おっ、照れてるんスカ？ 照れてるんスカ!？」

「あ、あはは、その… 普段、叔父さん以外を名前で呼ぶ機会なんて無くて、えへへ」

「… 寂しい学校生活なんスね」

「あはは…」

「否定しないのね…」

別にボツチという訳でもないが、必要以上に親しくなっている友人

が居ないというだけだ。

部活にも参加していないし、放課後に遊びに行ったりもせず、直ぐに家に帰って家事をしているから、いつの間にかそんな感じになってしまっていたのである。

♪ ♪ ♪

「ふうん、じゃあオソラーさんが楽しんでくれるなら、何だって挑戦してみよーって感じなのね？」

「そうですねえ…コレといった尖った武器がない僕には努力する事しかできませんから。色んな方面に手を出してみ、自分のスタイルを作っていくつもりです」

「ま、一芸と言ったら、既に存在そのものが一芸みたいなもんなんすけどね…」

性別についての質問は重複していたが、それを引いても大体20問とちよつとを、先輩達の進行に合わせて答えていった。

先輩方まかせて楽しく答えさせて貰っている間に予定していた1時間の終わりが近づいてきて、残りは2問分。

見事なタイムキーピングだなあ……

「目標としては、男性Vの星、みたいな感じでいいの？」

「そこまで大仰な事を言うつもりはないですけどね……単純にボクと一緒に遊びたいなって思ってくれる男の人が増えて欲しいって事です」

ボクの初配信からも分かるように、今は男性のV t u b e rには厳しい時期だ。

いずれそういつた厳しい目は無くなっていくだろうが、男とも女とも取れない中途半端なボクがその橋渡しとなりたい……

というか、そうして所属男性Vを増やし、業界に新しい風を吹かせようというのが事務所の意思だ。

「沢山の女のV t u b e rさんが活躍してらっしゃる現状がダメって言うつもりは全くないんですけど、企業所属の男の人だからこそでき

るって事もあると思うんです」

「まだこの業界は発展途上ツスもんね……アタシ達が大きくして  
いかないって事スか」

○○：そうかもなあ

○○：出会い系だけじゃないって訳か

○○：女性フアンの需要もあるしな

○○

?500

いい事言うじゃん

○○：まだまだ可能性がある業界

「ひとまずは4人プレイのゲームを男性だけでやる、くらいが夢として  
丁度いいかもしれないわね」

「いいですね、ソレー」

うん、夢が広がる話だ。

そういう風になれたら、きっと事務所も喜ぶだろう。

「つと……そろそろいい時間になってきたツスね」

「ええ、じゃあ最後、気になってた人も居たと思うけど、実はさっきの  
質問の時、29問目までしか聞いてなかったのよね」

「という訳で、最後の質問をしてこの配信を締めたいと思いますツス」

「じゃあ、30問目……五河ソラさんのママはどなたですか?」

ママ、というのは当然、実の母親という意味ではない。

そんな事言ったら身バレどころの騒ぎじゃなくなってしまう。

そうではなくて、この場合のママというのはL2Dの体を作つてく  
れた絵師さんの事を指している。  
デザインして

ちなみに3Dの体を作ってくれた人の事はパパと呼ぶらしいが、僕  
にはまだまだ関係のない話だ。

さて、ではボクの体を作ってくれた人は誰か。

それは……

「はい、それは明日の同じ時間にコラボ配信をさせてもらう予定の、四

ノ宮葵先輩ですっ!」

「という訳で、明日のコラボ配信は『親子コラボwith赤いの』となりますので、オソラーの皆様は期待して置いて下さいね」

「チャンネルは葵センパイの方でやるみたいですからお間違えのないようお願いするッス!」

〇〇：えっ!葵ちゃんだったの!?

〇〇：葵ちゃんすげえ...

〇〇：あー、あの子自分の体も自分で作ってたもんね

〇〇：親子コラボとかえてえの予感しかない

〇〇：親子に挟まれるアカリンで草

「ではでは、今日はこの辺で失礼するッス! お疲れ様っした」

「はくい、おつみどり」

「おつソラっ! でした」

「五河ソラChannel」

チャンネル登録者数：1. 46万人

☆☆☆☆

『普段、叔父さん以外を名前で呼ぶ機会なんて無くて、えへへ...』  
照れた声色で話す、画面の中の少女<sup>しょうねん</sup>。

ボサボサに伸びきった髪の毛をガシガシと掻き回しながら、天井を見上げた。

電気を消した暗い室内を彩るのは、<sup>かのじよ</sup>彼が映る液晶から漏れ出る光だけ。

手で顔——特に口元を覆いながら、今度は下を向いて、そして叫ぶ。  
「かツツツツツツツつわよッ!!!」

くぐもつてはいても尚大きい叫び声は、お隣の住人にも聞こえてしまつたらしく、ドンツという壁を叩く音が返ってきた。

でも、そんな事がどうでも良くなるくらい、己の心は今、幸福感に満たされていた。

今度は小声で——器用に——叫ぶ。

「ソラたん……… 一生推す!!!!」。

### 3話

「四ノ宮 葵【Virtual SKY】

7/15 (月・祝)

【親子コラボ】息子ができました【#メロドーア】

「ねえねえ！ 明里の事『お姉ちゃん』って呼んでみて!!」

○○：はじまつた〜!

○○

?77777

出産祝い

○○：ん?

○○：始まつたのの気づいてない…? ?

「明里お姉ちゃん?」

「ひゃわっはあああ!! んぎやわええええ!!」

○○：どんな声やww

○○：俺もソラたんにお兄ちゃんって呼ばれたい!!

○○：これはひどい

「ん? ふふ、オソラーお兄ちゃん♪」

明里さん——顔合わせ… というか声合わせ? の時に、翠さんや悠希さんと同様の呼び方が良いと言われたのでこの呼び方をしている——の要望に応えつつ、羨ましがっている視聴者さん達にも声を掛ける。

「ヌツツツツ」とか「ヴツツツツ!」とか呻いている人が多いけど、大丈夫かなあ…? ?

あつ、ダメならコメント打てないか…:



「えっ?」

「ご、ごめんね、明里ちゃん……もう配信始めちゃったよ……?」

「ぬヴェえええ!! はず!? はっず!? 今の聞かれてたの!? 明里の  
清楚なイメージがあかあ!!」

○○:は?

○○:清楚……? ?

○○

?500

他2人の清楚さに勝てるわけないでしょ

○○:そんなイメージは最初から無いが

「明里ちゃんの魅力はそこじゃないから……!」

「明里さんの魅力はそこじゃないですよ!」

「親子揃ってフォロワーしなあいで!!」

○○:息びったりで草

○○:親子でえてえ

○○:そんな揃うことある? w w

○○:フォロワーされる方が辛いでしょコレ

「いいよ! 明里は開き直ってやるかんね! ソラくんの事めちゃん  
めちゃんに可愛がったるから!」

「わあ! 光栄です!」

「この後輩っおい!!」

いやでもホントにありがたい限りだ。

明里さんはこの配信を開始する前にも、ボクに気を使って何度も声  
を掛けてくれたり、緊張を解すために小ボケを挟んだりしてくれたの  
だ。

彼女の言葉には、なんとと言うかカリスマのようなものがあつた。聞

いていると、落ち着いてくる——というには、些か賑やかだけど、暖かい気持ちにはなっってくる。

陽だまりのような人だと、ボクは思った。

「という訳で、日曜不定期でやらせてもらっている、このメロドーアコラボに、今日はゲストとして五河ソラくんに来て頂きました…！」  
「はい、ご紹介にあずかりました！ 夢はバチャス力所属男性V4人でゲーム配信！ Virtual SKY所属、新人男性Vtubeの五河ソラですっ！」

ちなみにメロドーアコラボというのは、明里さんと葵さんの2人でのコラボの事を指す。

元ネタは、つい最近35周年を迎え、ナンバリングタイトルが13作にも登る大人気RPG、ドラゴンファンタジー、略してドラFだ。

このゲームに登場する炎の魔法と氷の魔法を組み合わせた上級魔法をメロドーアというのだが、炎Ⅱ赤、氷Ⅱ青という連想から、シリーズファンである明里さんが名付けたのがこのコラボ名という訳である。

ちなみに、コラボ名の方は正式に表すとMellow Doorとなるそうさ。

意味としては「甘い世界への入口」という意味を持たせたいらしい。「でもなんかさあ…：さっきの息の合い方見ると、メロドーアwithソラくんってより、親子コラボwith明里って感じじゃない？」

〇〇：確かに

〇〇：親子の時間を邪魔しちゃダメだぞアカリン

〇〇：これは擁護できないww

〇〇：親子って何の話？

「あつ、そういうえば、昨日の配信でチョロつと言っただけですから、知らない人もいますよね」

「そうだったそうだった！ その話をちゃんとしないとね！ なん

と！ このソラきゅんのぷりちーなぼでーはね！ あおちゃんが産んだんだよー！」

産んだ……？

産んだ……うん、まあ「描いた」と言ってしまうのはメタっぽくなっちゃうから良くないのか。

にしたって、それではまるで葵さんが経産婦になったみたいで風評被害が凄そうなんだけど。

〇〇：言い方笑うわ

〇〇：つかプリチーなボデーってww

〇〇：まあ間違っては……ないのか？

「あはは……はい、ソラくんのママは私が担当させて貰いました。皆さんの期待に応えられたか心配ですけど……」

「そんな！ 謙遜しないでくださいよっ！ とっても素敵な身体が貰えて、ボクとつても嬉しかったんですよ？ 名前の通り、青空を人の形に切り取ったみたいですよ」

「そうだよそうだよー！ ソラくんめーっちゃ可愛いじゃん！ ねえ、みんなー？」

そう言つて明里さんがリスナー達を煽ると、それまで以上のスピードでコメントが流れていくようになる。

全てに目を通せる訳ではないが、把握しきれる限りではどこを見ても肯定的な意見ばかりだ。

〇〇：めちやくちや可愛い

〇〇：ソラたんソラたんクンカクンカスーハースーハー

〇〇：流石あおちゃんって感じ

〇〇：ソラくんも葵ちゃんもどっちもすこ

「あ、ありがとうございます……！ よかったあ。最初にソラくんの声を聞かせてもらった時、こんなに可愛い子のママになるんだっ

て、結構プレッシャーだったんです」

「えっ?」

葵さんと初めて喋ったのは、正式デビュー日が決まって、挨拶とこのコラボの打ち合わせの為に通話をした時の筈で、その時には既に体は完成していたんだけど……

「ああ、あの音声ね! 絶対盗撮でしょってやつ!」

「あはは、そうそう、そんなやつ。でも良かったの? 結構日常生活って感じの音声だったけど」

「えっ、何それ知らない」

「えっ?」

「あっ」

〇〇:あっ

〇〇:あっ

〇〇:ガチ盗撮じゃねえかww

〇〇:聞きたい

「えっ、ほ、ホントに? 聞かされてないの……? えっ、とその…… あはは、ご、ごめんね?」

「あ、い、いや、葵さんが謝ることではないので…… というか、どんな感じの音声を……?」

それ次第では中々恥ずかしい事になってしまう気がする。

いや、別に多くの人に声を聞かれるというのは、v t u b e r とい  
うか配信者になろうって言うんだから抵抗も何もないんだけど、聞か  
せるつもりのない声を聞かれるっていうのはちよつと思ふところが  
あるのだ。

「うえひひ、こんな感じのやつだよ!」

そうやって明里さんが何かしら操作し始める。と言っても、ワンボ  
タン押す程度のもので、すぐに「こんな感じ」という音声の流れ始め  
てしまった。

~~~~~

『???さくん? 今日の夕飯何がいいくく?』

『んー……… 何でもいいぞ?』

『もおっ! それが一番困るっていつも言ってるでしょ? 折角リク

エスト聞けるんだから、食べたいもの言っつてよ』

『お前の飯は何でも美味しいからなあ……』

『おだてたつて夕飯しかでないよ、もお』

くくくく

「何やってんの!? 何やってんのおじさん!? 何でこんな会話を先輩方に聞かせてんの!?!」

「……… ちゃんと名前の所は加工してあるんだね、あはは」

「もちー、ちなみに返事の声は、この音声を撮ってくれたソラくんの叔父さんだよー!」

○○:草

○○:おじさんGJ

○○:こんなんもう若妻じゃん

○○:可愛すぎて鼻血出そう

○○:実質シチュボ

ムツツリマン

?10000

ソラきゅんと結婚したい

○○:おじさんもめっちゃいい声。デビューさせろ

○○:ムツツリマンママもよう興奮しとる

くくくくく!!

体を作ってもらおう為の資料として葵先輩に渡すって言ってくれたら、いくらでも録音したし、何ならそんな理由なんて無くても一言「録音させて」って言ったらいくらでも喋る性格だって分かってるくせに!

なくんで盗撮って方向に行っちゃったかなあ!!

「おっ、ムツツリママ! スパチャありがとねくん! でもいくらマ

マでもソラくんは渡せないよ、ね？ あおちゃん！」

「う、うん！ いくらムツツリ師匠でもソラくんは渡せない… かな？」

〇〇：てえてえ

ムツツリマン：ふられちやった…

「あつ！ そうだ、ソラくん！ あおちゃんの事ママって読んでみなよ！ 明里達もムツツリママの事ママって呼んでるしさ」

「え、ええ…!?」

ま、ママかあ…

それはちよつと色んな意味で複雑というか。

そもそも設定上で言うのと、この3人は同級生だし、それにボクの母親は…

ふと暗い感情が心に擡げてくる。

今は人前に立っているというのに、この場そのものは誰もいない自室だからだろうか、感情も表情も凍ってしまいそうになる。

部屋の隅から這い出た闇が、ボクの懐かしさをつついてきて——  
つと、少し逡巡していると、葵さんがちよつとだけしよんぼりしてきてしまっている！

ボクの我儘で盛り下げるなんて、あつてはいけない事だ…！

「えと… 葵、母さん？」

そう呼ぶと、葵さんの顔は、アバター越しにでもハッキリと分かるくらいパアつと明るくなる。

コメント欄も葵さんの嬉しそうな声が聞けて盛り上がっていた。

「う、うん！ なあに？ ソラくん」

「葵さん… その、ボクのこと、産んでくれてありがとう」

「… ううん、こちらこそ、だよ。私達の後輩になってくれて、私の子どもになってくれて本当に嬉しかったんだよ？」

そう言つて微笑む葵さんの表情には、予めプログラミングされた絵が動いて出来ただけのものであるというのに、何よりも「生」なま／せいでの感情が籠つていた。

ボク·み·たい·に、ただ貼り付けただけの笑みじゃない。

あ·の·人·と·違·つ·て、ボクの事をただ一心に見つめている。

「だから……産まれて来てくれて、ありがとう」

あつ……

言うなれば、それは——その言葉は衝撃だった。

見たことも聞いたことも嗅いだこともない風が吹いて、ボクの心の澱みを雪ぐような、そんな暖かで爽やかな風。

優しさに包まれるように、ボクは葵さんの何かに体を撫でられた気がした。

だけど、全身の皮が向けてしまつて敏感になっているボクには、その優しい感触ですらも大きな刺激で——

ダメだ、ダメだダメだ！

配信中に泣いちやダメだ!!

ここで泣いたら放送事故になつてしまう！

そんなボクを引き戻してくれたのは、明里さんの声だった。

「てえてえええええええええ!!!!」

○○：てえてえ

○○：アカリン草

○○：台無しだよw

○○：気持ちは分かるけどもやね

♪  
♪  
♪

そんな感じで、少し危ない所もあつたけど、その後は終始和やかに

配信は進んだ。

明里さんに「可愛い可愛い」と構い倒されたり、葵さんにボクの体のデザインについて、拘った事や気に入っている点を教えてもらったりしながら過ごした時間は非常に有意義だったと思う。

視聴者の皆さんにもそう思っていただけたようで、ボクが出ているという事実のみを捉えて低評価を付ける人もある程度いるようだが、それ以上の高評価がそれらを打ち消してくれていた。

「あつ、そろそろ時間だね…。」

「うえー！ ホントだー!? もつとソラくんとお喋りしたいのになあ…。」

「これからいくらでも機会はありますよ！」

「そうだね…。」なんて言ったって私達に出来た初めての後輩だもんね」

「そっか、確かに！ じゃあこれからいーっぱい一緒に遊ぼうね、ソラくん！」

「はい！ 昨日今日と1期生の皆さんとお話できてとっても楽しかったので、またこのような機会が頂けるのなら、すっごく嬉しいです！」  
そんな風に言うと、いつも大きく左右に揺れている明里さんの動きがピタリと止まり、「ハッ!?」と息を飲む音が聞こえた。

——な、何かおかしな事を言ってしまっただろうか？

「そういや、明里たちって1期生ってやつなんだね！ なんかかかったよくない!？」

あつ、思いの外どうでもよかった…。

「そういえばそうだねえ…。」ソラくんは2期生って事になるのかなあ？ 同期居ないけど」

「いえ、ボクは1.5期生って扱いみたいです。同期が居ないのはちよつと気にしてるんですよねえ…。」

「ソラくん！ 同期はいなくても、明里たちにいーっぱい頼ってくればいいからね！」

「そうだね、うん。私もソラくんのママとして、出来ること何でもしてあげるから…！ 新衣装とかも一緒に考えようね！」



「ありがとうございます…！」

「よし！　じゃあ今日はこの辺でおしまい！　何か告知とかある人いるー?」

「あっ、告知という程ではありませんが、明日の夜から早速通常配信を行っていいこうと思いますので、お時間のある方は来て下さると嬉しいです！」

「ソラくん、頑張ってるね…！」

「じゃあ、おつアカリーン！」

「お疲れ様でした…！」

「おつソラ、でしたっ！」

○○：お疲れ様でしたく

○○：ちよちよちよちよい待て!!

○○：1. 5期生って事は2期生もくるってコト!?

○○：爆弾置いてどっかいつちまいやがった…

「五河ソラChannel」

チャンネル登録者数：1. 83万人

☆☆☆☆

「ハッ!？」

叔父さん盗撮ボイスからの記憶がない……!!?  
尊過ぎて気を失ってしまったのか……

またアーカイブを見直さねば。

今日も地上に降りた天使は天使だった。

もうあと数分でリアルタイムで喋る彼とお別れかと思つと、寂しく  
て心が壊れそうだ……

めちやくちやアーカイブ見直そ……

『1. 5期生つて扱いみたいですよ』

うーん、『五河ソラ先輩』か……

コラボする事になったら何て呼ぼうかなあ……!!

## 掲示板回

バチャスカを応援するスレ そのXX

321 : 名無し ID : axnU8d7L2  
で、実際どう？

322 : 名無し ID : 25VjGcLzb  
聞き方が雑すぎて何も分からん

323 : 名無し ID : axnU8d7L2  
決まってんだろソラたんの事だよアアン!?

324 : 名無し ID : 8kUmOYkSv  
かわいい

325 : 名無し ID : ezU4hFB rM  
かわいい

326 : 名無し ID : HRGxm t8fd  
かわいい

327 : 名無し ID : eZDs rDARU  
かわいい

328 : 名無し ID : axnU8d7L2  
そんな事聞きてえんじやねえって!

329 : 名無し ID : 8kUmOYkSv  
ならソラたんが可愛くねえって言うのかよ  
!?!?!?

330 : 名無し ID : 8fUEEcNVA  
ガチギレで草

331 : 名無し ID : axnU8d7L2  
そうは言ってねえだろ!?  
めちやくちや可愛いわあの子!!

332 : 名無し ID : npNPnt9fa  
青緑と競る清楚さ

333 : 名無し ID : JrS6Mde85  
いや、緑は赤いのにツツコむ時とかちよつとアレだし、青もたまに  
オタク出ちやうから実質お空がナンバーワン清楚では?

334 : 名無し ID : yjXFVjAxW  
なんでやアカリン清楚やろ!?

335 : 名無し ID : b4Eebm4t4  
良い子ではある、間違いない  
ただ、ちよつと清楚とは……

336 : 名無し ID : eK4KEjsux  
ここまで言及もされない黄色いの

337 : 名無し ID : Eutm x j m z d  
あの子は結構下ネタとかいけちやうからなあ

338 : 名無し ID : wRP3YePg d  
アカリンは実は下ネタダメだもんな

339 : 名無し ID : V R t d A X r N n  
やっぱ清楚じゃん

340 : 名無し ID : W 9 p p w E r X x  
ダメなのは生々しい性関係だけだろ  
小学生みたいのは大好きじゃん!

341 : 名無し ID : m E E i Q c L D J  
何の配信か忘れたけど、1回うんこで大爆笑してたよな

342 : 名無し ID : r d K W G i U W e  
爆笑は多人数で笑うこと定期

343 : 名無し ID : G U V S g t G R c  
アカリン、ソラくん好きすぎで草

一之瀬 明里@AkArin | VsKy  
ウチの後輩可愛すぎん!?!?  
めっちゃ愛でるわ

あおちゃんが母親なら、明里がお姉ちゃんでもいいよね!?

344 : 名無し ID : T d J y X 4 K J V  
後輩できて嬉しかったんだろうなあ

345 : 名無し ID : U W X d s W m Y 8  
黄「あのアタシは……?」

346 : 名無し ID : 8 k U m o Y k S v

ただの後輩じゃなくて、謎の可愛さをもつ出来の良い後輩だから尚  
更な

347 : 名無し ID : GUVSgtGRc

>>345

.....!!

アタシは傷つきました。

罰としてソラっちは貰っていきます。

348 : 名無し ID : U9R3k7DkS

赤を巡った黄と空の修羅場かと思つたら、空を巡った赤と黄の修羅場だったでござる

349 : 名無し ID : f9UUNKrQ5

こうどなしんりせん

350 : 名無し ID : mbma27B2C

ほんで結局>>321は何が聞きたかつたん？

351 : 名無し ID : axnU8d7L2

いや、ソラたんって結局男なんか女なんかどっちだと思つて？って

352 : 名無し ID : wNRzr2FrX

男やいうてるやろ

353 : 名無し ID : 2bzXgFpgr

男の娘

354 : 名無し ID : 8kUmoykSv

性別 : 五河ソラでFA

355 : 名無し ID : a x n U 8 d 7 L 2  
いやそうじゃなくて、中の人的な意味でさ

356 : 名無し ID : r W k L s p 9 4 8  
それは流石に女だわ

357 : 名無し ID : S y 3 p B J e X Q  
普通に男じゃね？

358 : 名無し ID : B P X 7 R Y T Y u  
男

359 : 名無し ID : P 8 g W B g 8 j 7  
女

360 : 名無し ID : 9 s h p 4 h z X c  
女

361 : 名無し ID : 3 e L U s m b h Q  
男だろ j k

362 : 名無し ID : g J g u 7 L G e x  
あんな可愛い子が女の子な訳ないだろ!?

363 : 名無し ID : W 5 n T x 6 a M 8  
実際分かん

364 : 名無し ID : a x n U 8 d 7 L 2  
そうだよな!!

どっちにも聞こえるんだよマジで!

365 : 名無し ID : 8kUmoykSv  
俺は実際も男の娘に華京院の魂を賭けるぜ

366 : 名無し ID : 2wPQkC7Wy  
それは流石に夢見すぎだわww

367 : 名無し ID : ESgdDns5Q  
また勝手に賭けられてる……

368 : 名無し ID : hZbGJbFJ3  
それより2期生くるってマジ?

369 : 名無し ID : SbdzQN4sr  
そりやマジだろ

何のためのオーデションだよ

370 : 名無し ID : CaCkrM5kF

いや、何人採用とか書いてなかったから、てつきりソラたんがオー  
デションに受かった2期生なんだとばかり

371 : 名無し ID : fgFWKniaJ

ソラたんもオーデションで受かったけど、なんか事情があつて先  
にデビューさせられたとかじゃね?

372 : 名無し ID : JwFXJF2Ha

それか、逆に他の2期生が遅らされたか

373 : 名無し ID : KA h6zAy3y

バチャスカ所属の男Vと遊びたいみたいなこと言ってるし、ソラク  
んが潤滑剤みたいに期待されると予想



374 : 名無し ID : WVB7FjCt7  
どゆこと？

375 : 名無し ID : KA h6zAy3y  
男と名乗ってる男か女か分からない可愛い子を1回挟む事で、2期生でデビュー予定の男Vへの反感を分散させようとしている的な

376 : 名無し ID : LWpXPHy kX  
なるほど

377 : 名無し ID : zUYeK6ySP  
上手くいくとは思えんが……

378 : 名無し ID : axnU8d7L2  
まあ批判は覚悟の上だろ

379 : 名無し ID : LYXxwLftX  
ガチで出会い目的のクズなら兎も角、そうじゃないなら多少はマシになるんじゃないかね？

380 : 名無し ID : WQUPXKE9R  
魂に言及できない以上、男Vって公言してるソラって前例が居る事になるんだから、全く前例無しよりはまあマシ

381 : 名無し ID : Mfy7RAXbj  
ソラくんが男Vとコラボしたいって言っちゃってるんだから、ソラくんのファンが2期生男の味方につくだろ

382 : 名無し ID : nhmHtrL5c  
最悪、ソラくんとのみコラボするっていうのもアリな訳だし

383 : 名無し ID : i p F X h S e G w  
そんなのソラくんの処女があぶないだろ?!?!?

384 : 名無し ID : M A D x A z 9 j h  
男の子だっつってんだろホモ

385 : 名無し ID : w 6 z m z n W g j  
でもさあ…

ソラくんの中の人マジで男だったら、結局当初の心配通りにならない?  
ない?

386 : 名無し ID : N B j E i p 7 f s  
ソラくんが出会い目的とか想像できねえ…

387 : 名無し ID : z 3 H S U B i s Q  
なんかもう可愛いからいいかなって

388 : 名無し ID : K X L W u W u n 2  
ソラちゃん相手なら実質百合だしセーフセーフ